▲画面の紹介に戻る

● ●	□ ● 号 光 2 1/2 1本文 2目次 3通読 4法華 5年表 65:① 7書出 80 0 1 1本文 2目次 3通読 4法華 5年表 65:① 7書出 80 0 1 1本文 2目次 3通読 4法華 5年表 65:① 7書出 80 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	- 🖕 🔺 💌 🚬 🗶 🛣 🚰
1-323 高橋殿後家尼御前御返事(衣食御書) ② ○ ○ 女人某師返事(1-99)・断簡一○三・三一二・三二とと同一書 ③ ① ③ 和文 2 2784 55 歳 万 ○ ○ 女人其師返事(1-99)・断簡一○三・三一二・三二とと同一書 ○<	御書本文 パンピュー 人 >	▶ 📑 🛅 1113 /1113 並替:書名順
文人和前返事(1-93)・新商一〇三・三一二・三二七と同一書 次 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 加 第 1276年 55 成 成 第 加 月 加 月 加 月 1276年 55 成 1276年 55 成 1276年 55 成 1276年 55 成 1276年 1276 12764 12764 <th>1-323 高橋殿後家尼御前御返事(衣食御書)</th> <th></th>	1-323 高橋殿後家尼御前御返事(衣食御書)	
1 677 と1 2 70 再目 (4-312 日本) 1 6 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	1-323 高橋殿後家尼御前御返事(衣食御書) 1 建治02年02月以前 デ 女人某御返事(1-99)・断簡一〇三・三一二・三二七と同一書 デ 建治02年02月以前 解 題 人所 意志示 1276年 55 歳 定本違文 弘安01年 対照録 建治02年 解 題 人所 意志示 有 調査 人所 意志示 高橋町分蔵。の京都府妙運寺上書きと第一紙、通称『 大会御書』 文音橋六郎入道後家 一の前個に四山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高 学等第五紙初三行⑤京都府本光寺尭運氏四行・新加。本書は『定 小福御書 文永11年 の静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高 少方橋六郎入道後家 一の静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高 学等第五紙初三行⑤京都府本光寺尭運氏四行・新加。本書は『定 小福御書 文永11年 一の静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高 少方橋六郎入道後家 一の参岡田県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高 少第五十 一の前日、二日、 小 本書は『定 小福御書 文永11年 の 調査 小 小 ジョー 265836 一の参岡田県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』● の プロ ジョー ジョー のの向しくバラ・ジョー 回し、 ジョー 26836 三の参切 一ののあっ 回し、 「 ジョー ジョー 三の方の シー シー 回し、 「 回し、 ジョー ジョー 118 の 回し、<	【四日本 1 日本 1

御書資料フォーム画面

	各部の構成						
1	書き出しボタン	2	選択条件切り替えトグルボタン	3	文体表示		
4	御書名読み文体表示	5	刊本番号欄	6	系年欄		
7	対告欄	8	御書対照欄	9	解題欄		
10	書名備考欄	1	系年備考欄	(12)	対告備考欄		
(13)	真蹟備考欄	14	写本備考欄	(15)	その他備考欄		
(16)	解題表示ボタン						

御書資料フォーム画面では、最新の研究を踏まえた御書に関するさまざまな解題・資料等を表示しています。

縦書きのフォーム画面も用意しています。(フォームの切替は、 ¹をクリックします)縦書きフォームも、操作はほぼ同じです。

● ● 覧 ♥ MA2 1本文 2日次 3通数 3法算 部次 30月25-	1 5年表 66字書 2書出 💈	検索 🔍	自識起	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	× ▼	 <
1-024 立正安国論	0	定本番号	24	和定都号 45	対照錄業号	13巻
条 年 (文成初1年)	定本濃文 文式01年	対規録	文本08年	新編御書 文応01年	33 披	深文
对 告 最明寺入道=北梁時頼		一种調	4-1	能纳 1-1	文段	5
9X7ARo. 12485 定本追文 203.03 新定即書 567.06	維節過文 373.04 御書全美 17.04	緣 内 錢 外	101.02	新編即書 234.04 平成新修 77.03	対解線 真論集成	1217.05 2002.01
○のより、主人は真たに耳中の法然一門と出すべし、 きたそえず、高年間等でしたないことを示し、 薄くれたないのかとの客の問いに対し、主人は彼られて勝 すたの主要を認道罪した者が、こかとなるために、 算で はないのかとの客の問いに対し、主人は彼らは一代の提案 を行えず、高年間等することと、 はなないのかとの客の問いに対し、主人は彼らは一代の提案 すたの主要を認道罪した者が、しかとなる人は家の重 のためとの天皇を認道することを示し、 浄 たたの主要を認道罪した者、しかとないのに、 行気戦争た 、主人は身はの量たりとも、仏法の正義に管押しよれて勝 、主人は身はの量たりとも、仏法の正義に管押したれて勝 たを示す。第七間等は、したらえて、 浄土教験研究の指述と目的していないのに、 行戦戦争た のためと認定したらえて、 学生教師院の先期 を示す。 第七日間等は、したらばいかにして以及を示することと かを客が明ら、主人はは高いににないのに、 うればたちの。 のためとないたけ、 とものにないのかとの客の問いに対し、 本人はないのかとの客の問いたがする。 とれていためる としため、 のためとので、 のためのための 、 本人はないのかとの客の問いたがする 、 とれている。 を示す。 第七日間等は、 したらえて、 うたがにしたらえて、 うたの正義に使用したる。 とれている。 うたで、 うたの正義に ないのかとの客のに対しためため。 うたの正義に うたの正義に ないためる うたの うたの うたの うたの うたの うたの うたの うた	四朝香は、客が怒って誰を高倍というか具体的にデナよう 四朝香は、客かこのように能に私法認な人の支援す。第二朝空 えるが、和正を弁えざる偽りの確認であることを示す。第 三切る、和正を弁えざる偽りの確認であることを示す。第三朝空	いのはなぜかとの問いに対し、主人は世が正に皆を悪に帰いのはなぜかとの問いに対し、主人は世が正に皆を悪に帰	おり、それ故にその大群分が経文の引用である。客と主人よるものではないものの、勅文の倉廩をもって読められて本者は宗祖自ら「勤文」といわれるように、基府の佐頼に「ヨーー」。	・ 写木は『日興木』(大石寺部・封法堂寺部)、『日桂木』 (長長地田部)、『日美木』(太石寺部・封法堂寺部)、『日桂木』 (天長寺部)、『日美木』(太市北山木門寺部)などがあ 四外見。昭永告。」とあり、日興存金時のこと記、その読 四外見。昭永告。」とあり、日興存金時のこと記、その読 四外見。昭永告。」とあり、日興存金時のこと記、その読 四外見、昭永告。」とあり、日興存金時のこと記、その読	相治八年焼兵。しかし、日乾の卒本が本港寺に所屬される相治八年焼兵。しかし、日乾の卒本が本港寺院町子がいとあり、食処に防蔵されていたが一時日時日に「、立正安回議・最初節は法に、城・・・・・・・・・・・・・・	■ 「 」 の で 構 の 一 に い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 た い の り 根 の し 二 二 四 紙 は 欠 大 し 、 中 山 十 四 世 日 欠 大 し 、 中 山 十 四 世 日 二 十 四 紙 は 欠 大 し 、 中 山 十 四 世 日 二 十 四 紙 は 欠 大 し 、 中 山 十 四 世 日 二 一 四 世 日 二 一 四 七 四 七 四 日 一 の 一 の の の の の の の の の の の の の

御書資料の縦書きフォーム

《御書資料フォーム画面専用機能》

①書き出しボタン……御書資料のデータを書き出します。現在表示の御書と全御書(絞込状態の場合は絞り

込んだ御書のみ)の書き出しが選べます。

<u>7</u>書出

②選択条件切り替えトグルボタン……検索・絞込の際の選択条件を選べます。

```
◎t対告 ◎k解題 ◎s真蹟 ◎p異名
```

③文体表示……御書の文体(和文・漢文・混交)が表示されています。

和文

④御書名読み……御書名の読みが表示されます。ただし、トグルボタンにチェックを入れておくと、御書名に異称がある場合のみ、漢字で表示されます。

◎ たかはしどのごけあまごぜんごへんじ・えじきごしょ・にょに

トクルホタンにナェックかめる場合の表示 📀 女人某御返事(1-99)・断簡一〇三・三一二・三二七と同一書

⑤刊本番号欄……各刊本御書集の御書番号が表示されています。

定本番号	323	新定番号	381
対照録番号	62	鎌倉遺文	

⑥系年欄……表示御書の系年と各御書集の系年が表示されています。

建治02年02月以前				
1276年	55 歳			
定本遺文	弘安01年			
対照録	建治02年			
新編御書	文永11年			

⑦対告欄……表示御書の対告者が表示されています。



⑧御書対照欄……各刊本御書集の開始頁数・行数が表示されています。

システムNo.	26896
定本遺文	1619.13
新定御書	1954.03
縮刷遺文	20159.06
御書全集	1302.15
録内	
録外	
新編御書	751.12
テキスト	
対照録	2183.04
真蹟集成	4222.01
平講	27-248
龍講	
文段	

9解題欄……表示御書についての解題を表示します。データをクリックすると、各備考が拡大表示されます。

		解	題		
真蹟断簡、	五箇所分蔵。	。①京都府	妙蓮寺上書き	きと第一紙、	通称『
衣食御書』	②京都府本福	禅寺第二紙	、『定本』は	は断簡扱い	(2974頁
)③静岡県	西山本門寺道	第四紙、通	称『女人某御	即返 事』 ④7	可県高
岸寺第五紙	初三行⑤京	都府本光寺,	尭運氏四行・	·新加。本語	割は 『定
本』にては	:上述の如く)	バラバラに	収録するが、	『真蹟集』	划 『対
照録』『新	定』が一つの	D御書とし	、『新定』:	は「上野殿后	已御前御
返事」とす	る。しかし:	文中故人の	供養のために	こ、自分は行	計すない
が弟子を基	に遣わした。	との記述が	番号203「涯	載劫御書」と	と符合し
形成劫御	書」の「故	合郎入道 に	は高橋六郎ノ	(道であるた	いら、同

①書名備考欄……御書名についての解題です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

р	『定本』の①「衣食御書」(1619頁・ 番号323)②断
書	簡新加三一二(2974頁・ 番号4-312)③女人某御返事
名	(610頁・ 番号99)④断簡一〇三(2512頁・ 番号4-10
偏	3) ⑤断簡新加三二七(2978頁・ 番号4-327)は同筆に
考	て、『真蹟集成』『対照録』は「衣食御書」(但し『

①系年備考欄……系年についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

g 『定本』は③「女人某御返事」を文永九年、②⑤断簡 系 新加を建治、①「衣食御書」を弘安元年、④断簡を弘 年 安とする。『新定』は「上野殿尼御前御返事」とし弘 備 安元年に系ける。『対照録』は「衣食御書」とし建治 考 二年に系ける。『池田論文』〈『興風』13号198頁〉は

12対告備考欄……対告についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

r 「減劫御書」を河合入道宛と見、同じ時期に娘である 対 高橋入道後家尼に入道の追善の為に認められた書状と 措定。建治二年二月日の宗祖本尊の日興添え書きに「 備 富士西山河合入道女子高橋六郎兵衛後家持妙尼に日興 考 申与之」とあり、およそそれ以降建治三年五月四日「

①真蹟備考欄……真蹟についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

⑤京都府妙蓮寺上書きと第一紙、通称『衣食御書』②
 京都府本禅寺第二紙、『定本』は断簡扱い(2974頁)
 ⑬静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④
 備
 石川県高岸寺第五紙初三行⑤京都府本光寺尭運氏四行
 ・新加。以上を『新定』『集成』『対照録』は同一書

⑭写本備考欄……写本についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。



15その他備考欄……③~①以外の備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。



16解題表示ボタン……各備考が拡大表示されている時表示され、このボタンを押すと解題の表示に戻ります。

k解題表示

《御書資料フォーム画面への移動》

御書資料フォーム画面への移動は、メインメニューの^{2.御書資料}、または^{2資料}のある各フォーム画面上から、 それらをクリックして移動します。

《御書資料フォームの主な項目》

- [書名]: 概ね従来の書名を尊重しましたが本文内容と符合しないものなどは改めました。その場合旧名は括弧 で括って残してあります。主な異称はトグルボタンのチェックで「よみ」欄を切り替えて表示できます。
- [C]: [書名]欄の隣の数字が[C]の値です。

 下記に説明しています。
- [系年]: 従来の説を改めた場合は[系年備考]欄に理由を明記してあります。
- [対告]: 従来の説を改めた場合は[対告備考]欄に理由を明記してあります。
- [平講]: 日蓮聖人遺文全集講義29巻 同刊行会 (当システムでは初版本の頁数を記しています)
 - [龍講]: 日蓮聖人御遺文講義19巻 日蓮聖人遺文研究会
 - [文段]: 日寛上人文段集 聖教新聞社
- [解題]: その御書の全般にわたって最新の研究成果も取り入れて検討し、新たな解釈などを意欲的に盛り込だ 内容になっています。
- 各[備考]: [書名][系年][対告][真蹟][写本][その他]の各欄を設けています。名称は[備考]ですが各御書の資料データそのもので、充実した内容になっています。

《備考を拡大表示する》

各[備考]には内容が長文につき表示しきれないものがあります。その場合は、各[備考]欄の本文部分かその左ボタ ンをクリックすれば、中央 [解題] 欄に一時的に拡大全表示されます。

戻すときは、同じところを再度クリックするか、 [解題] 欄本文、もしくは || 解題表示|| をクリックします。

※[解題]が長文の場合は、右のスクロールバーを下げながら読みます。元に戻すときは、スクロールバーを上げれば 戻りますが、左右の幅の広い灰色の空白部分をクリックしても簡単に戻ります。

各[備考]欄は表示されていませんが、「x各備考」ボタンをクリックすれば[備考]欄に移動します。



縦書きフォームの場合は、「各備考」ボタンをクリックすると備考画面へ変わる

《 C =全御書を10に部類分け》

[C]は class の頭文字で、部類の意です。御書システムでは、御書を、真蹟・写本の存否、内容の種別、システムの 必要性等の理由から10に分類しています。「御書本文」「御書通読」の各行にも付してあります。 (右端の数字は、その C の御書が御書全体に占める割合を[システム版御書]の文字数によって表したものです。)

C=0 真蹟が完全若しくはほぼ完全な形で現存し、活字御書と対応するもの。	17.6 %	
C=1 真蹟が断簡で現存し、活字御書の断簡と対応するもの。	5.2 %	
C=2 真蹟の断片が現存し、活字御書の一部分と対応するもの。	11.6 %	
C=3 真蹟が明治8年の火災まで身延山久遠寺に存在していたもの。	10.0 %	
C=4 真蹟は現存しないが日興書写本の現存するもの。	4.5 %	以上 48.9 %
C=5 日興上人以外の上代諸師の古写本の現存するもの。	3.2 %	
C=6 上記の0~5と下記の7~9以外の全てのもの。	31.3 %	
C=7 御義口伝と御講聞書。	6.2 %	
C=8 富士門流の相伝書類。	1.5 %	
C=9 偽書と云われるもの。(昭和定本第三巻の第二輯続篇分)	8.9 %	以上 51.1 %

《御書資料フォーム画面での検索・絞込》

御書資料フォーム画面での、検索・絞込の詳細は、

「主な機能別使い方(調べる)」→「E、御書資料(解題)を調べる」

をご覧ください。

《御書資料フォーム画面での書き出し》

御書資料フォーム画面での、書き出しの詳細は、

「主な機能別使い方(書き出す)」→「B、御書資料(解題)の書き出し」

をご覧ください。

▲<u>このページの先頭に戻る</u>

/--- 戻る(現代語訳) 画面選択 次へ(御書通読) -----